



衆議院議員 村井ひできです。新型コロナウイルスとの闘いが長期戦を迎えています。そうした中、医療関係者の皆さんはじめ、私たちの生活に不可欠な商品・サービスを提供頂いている方々に感謝申し上げます。また、感染拡大防止と経済活動の両立に向けて、新しい生活様式への対応にご協力頂いている多くの皆さんに、重ねて御礼申し上げます。菅義偉政権が発足して数か月。私は、国会対策副委員長の役職を拝し、円滑な国会審議や新型コロナ対策などに取り組んできました。本号では、2020年下半期の活動を報告致します。

国会対策副委員長を拝命

最年少副委員長として予算委員会を担当

9月16日、菅義偉政権が発足。私は、国会対策副委員長を拝命しました。国会対策副委員長は、かつて菅総理や安倍前総理も経験した、若手中堅議員の登竜門的ポジションです。

国会対策委員会（通称：国対こくたい）は、政府与党で企画立案した予算案や法律案を、野党との調整などを経て、国会で成立させる「国会審議の裏方」と言われます。ただし、与野党からの情報の集積地であると同時に、政権運営の真髄も蓄積されている場所でもあり、私も円滑な国会審議に汗をかきつつ、多くのことを吸収しています。

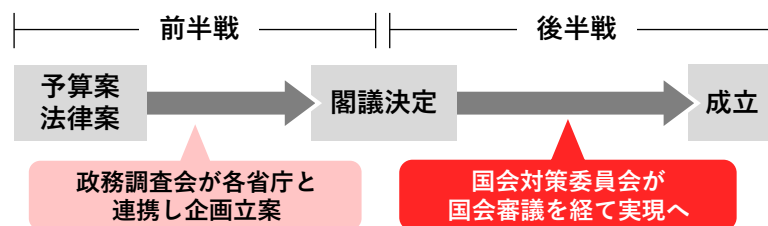
なお、各党に国会対策委員会がありますが、自民党国対は、委員長・委員長代理と、15名の副委員長で構成されています。各副委員長には担当の委員会が割り当てられて、全体の国会スケジュールを見ながら、各委員会の円滑な審議に尽力します。



私は、最年少の副委員長として、「国会審議の華」とも言われる予算委員会を担当しています。

国会対策委員会（国対：こくたい）とは？ -政策づくりの後半戦！-

<予算・法律ができるまで>



自民党内の政策づくりは、政務調査会での企画立案段階（前半戦）と、国会対策委員会での成立段階（後半戦）に大別されます。まず、政務調査会では、霞が関の各省庁と連携をしつつ、予算案・法律案などを策定。その後、閣議決定を行うことで、政府与党案となります。国会対策委員会は、そうして出来上がった予算案・法律案を、国会審議を経て成立に導くことが仕事です。

与党の国会対策委員会は、いかに政府与党案をスムーズに成立させるかが第一目標となりますが、その際、野党の要望も出来る限り受け入れることで、主張や立場の違いはあれど、野党も納得した状況で国会審議を進めることも目指します。そうした与野党の駆け引きは、「国対政治」とも表現されますが、虚々実々のやりとりが日々なされている「政治の現場」が国対です。

私自身は、これまで政務調査会での政策の企画立案の仕事を主に行ってきましたが、国対副委員長として、政策づくりの後半戦にも参戦することとなりました。

国会審議の裏方 村井ひでき国会対策副委員長の仕事

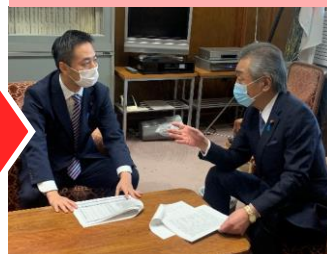
朝の資料チェック

委員会開催日は、朝7時半から質疑者が使用する資料のチェック。最近の予算委員会では、テレビの視聴者にも分かりやすいように、パネルが使われますが、情報源の信頼性などを事前に確認して、週刊誌情報など不確かなものは提出資料から削除します。



国対委員長代理へ報告・相談

委員会開催にあたって、「野党の質問時間を伸ばせ」、「安倍前総理を参考人招致せよ」など様々な要望が野党から寄せられます。そうした要望への対応を、松本純 国対委員長代理（神奈川1区）に報告相談。経験豊富な先輩議員からのアドバイスを基に調整にあたります。



国会対策委員長へ報告・相談

委員会終了後に、森山裕 国会対策委員長（鹿児島4区）に、審議内容の報告や審議中のトラブルへの対応を相談します。必要に応じて、国対委員長から、野党の国対委員長と直接話をして頂き、問題解決につなげたり、官邸や政府に、国会答弁の仕方などについて、改善を促します。



委員会中のトラブル対応

委員会開催中には、委員長の審議の進め方・閣僚の答弁内容などを巡って野党側からクレームがきます。そうしたクレームに対して、舞台裏で迅速丁寧に対応することで、円滑な審議につなげます。菅内閣初の予算委員会でも、こうした場面が散見されました。



新型コロナとの闘いに打ち克つためにワクチン接種が不可欠

新型コロナとの闘いに打ち克つためには、最終的にはワクチン接種が不可欠であると言われています。

ワクチンには、①感染予防（接種した人が感染しない）、②発症予防（接種した人が発症しにくくなる）、③重症化予防（接種した人が重症化しない）の3つの効果があります。さらに、接種した人が社会全体で増えると、接種していない人の発症者も減少する、④集団免疫効果もあると言われています。（①や④は厳密な実証は難しいとの意見もあります。）

新型コロナについても、このようなワクチンがあれば、社会全体で発症者や重症者を大きく減らすことが出来ますので、効果の高いワクチン開発は人類共通の課題です。現在、世界の英知を集集して開発が進められており、我が国政府においても、巨額の財政資金を投入し、研究開発支援やワクチン確保に向けた交渉を進めています。

そうした中、12月8日には英国でワクチン接種が世界に先駆けて始まりしました。2021年は、我が国においても、有効性・安全性が確認されたワクチンを、出来るだけ早く、混乱なく、多くの方に接種することが大切です。

ワクチンには、必ず副反応がある

しかし、我々は、一つ確認をしておく必要があります。残念ながら、ワクチンには「副反応」と言われるリスクがあり、これを完全に無くすることはできません。

例えば、インフルエンザワクチンでは、大半の方には何も問題は生じませんが、注射箇所が腫れたりする局所反応が約9%、発熱やけだるさなどの全身反応が約2%生じています。また、極めてまれなケースですが、重度の健康被害も確認されています。例えば、両足の力が入らなくなるギランバレー症候群が100万人に1人、唇・手足のしびれなどのアレルギーが1000万人に4人生じています。

リスクゼロの絶対に安全なワクチンはありません。ワクチン接種は、副反応がまれに起こることを認識した上で、感染症の予防効果というメリット（有効性）がデメリット（リスク）を上回っている場合に限り進めるものです。

我が国だけ接種が進まない「子宮頸がんワクチン」の反省

実は、我が国には、「子宮頸がんワクチン」の苦い経験があります。子宮頸がんは、日本で、年間1万人が罹患し約3千人の方が亡くなる病気です。WHOはワクチン接種を推奨。欧米諸国では公

的接種が実施されています。我が国では2013年から法的な裏付けのある定期接種となったものの、副反応についてのセンセーショナルな報道が続き、国民全体にワクチンへの恐怖感が広がった結果、2013年以前は70%以上あった接種率が、その後1%未満に落ち込んでしまいました。

ワクチンを評価する(独)医薬品医療機器総合機構などでは、その安全性・有効性が確認されているにも関わらず、接種率は未だ改善せず、先進国中、我が国だけが、子宮頸がんワクチン接種が進まず、大変残念なことに、引き続き多くの方が亡くなられています。

我々一人ひとりがワクチンについて理解を深めることの重要性

こうした過去の反省を踏まえ、新型コロナワクチン接種については、我々国民一人ひとりが、過度に恐れることなく、その効果と副反応について、正しく理解を深めることが大切です。

当然、政府としても、国民の皆様が安心してワクチンを接種できる体制整備を進めています。まず、国内外の専門家や規制当局から最新の知見を集めて「新型コロナウイルスワクチンの評価に関する考え方」を作成。今後、ワクチン承認にあたって、安全性や有効性を十二分に評価していきます。

また、ワクチンによる副反応を疑う事象が発生した場合には、医療機関からの報告を迅速に集約し、専門家の意見を聞きながら、必要な措置を講ずる体制も整備しています。

さらに、万が一、ワクチンによって健康被害が生じた場合には、被害者の方を迅速に救済する、救済給付制度も整備します。

このように政府としても、安全なワクチン接種環境の整備を全力で進めています。大事なことは、ワクチンの特性を1人1人が良く理解し、社会全体で冷静に対応していくことにあります。

率直に言って、昨今の新型コロナにまつわる報道には、必ずしも科学的知見に基づかない極端な意見も散見されます。実際にワクチン接種が始まると、期待や注目も高いだけに、「子宮頸がんワクチン」と同様に、リスクだけを強調したような、センセーショナルな報道がなされるのではないかと危惧しています。

安全性・有効性が確認された、新型コロナワクチンをできるだけ多くの方に接種して頂くことが、新型コロナとの闘いに打ち克つ早道です。私も、政府行政に積極的な情報開示を求めて参ります。是非、皆様方におかれましても、新型コロナワクチンの接種に向けてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「Mr.事務局長」として政策作りに邁進

政務調査会では、政策作りの中心となる「事務局長」を幾つも兼任。通常、一議員に一つ事務局長が任されるところ、8つの事務局長を任され「Mr.事務局長」と呼ばれています。特に、薬事小委員会では、ワクチン供給体制整備を進めると共に、競争政策調査会では、菅政権の看板政策である、携帯電話料金引き下げに取り組んでいます。



「開かれた総裁選挙」に向けて

先般の自民党総裁選挙においては、党員投票の重みが大い「開かれた総裁選挙」の実施を、若手議員を代表して執行部に要求。党内を二分する大きな議論となりました。



さいたま市の医療提供体制整備に尽力

今年度取り壊し予定であった、さいたま市立病院の旧病棟の有効活用など、市内の医療提供体制整備に引き続き取り組んでいます。市立病院旧病棟では、11月20日から、インフルエンザや新型コロナの検査を行う、発熱外来がスタートしました。写真は県庁で旧病棟の有効活用を説明する様子。



下半期も多くのメディアに出演

2020年下半期もコロナ対策・自民党総裁選挙などを巡って、多数のメディアに出演。写真は「朝まで生テレビ！」で、コロナ対策について、田原総一朗氏と議論する様子。



【新型コロナでお困りの方へ】村井ひでき事務所では、新型コロナ発生以来、コロナ経済対策・支援策を地元の皆様へ情報提供すると共に、申請のお手伝いなどの対応をさせて頂いております。既にご相談頂いた件数は、1000件を超えております。お困り事やご要望がございましたら、下記の担当にご連絡ください。迅速に対応させて頂きます。

岩槻区担当 相馬大作 宮代町出身 元社会保険労務士 連絡先：090-1218-3091	浦和区担当 尾崎裕太 浦和出身 元キックボクサー 事務所歴8年 連絡先：080-5378-9403	緑区担当 石井勝 緑区出身 芝原小 三室中 浦和学院 卒 連絡先：080-5505-1911	見沼区担当 舟本司 富山県出身 元ゴルファー 一児の父 連絡先：080-6888-2962	政策担当 二宮尚徳 滋賀県出身 獣医師 元農水省 連絡先：090-8313-0955
---	--	---	--	---